

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600502		
法人名	合資会社 若葉		
事業所名	グループホーム 若葉 (1階)		
所在地	岐阜県羽島郡岐南町平成2丁目139番地		
自己評価作成日	平成24年11月1日	評価結果市町村受理日	平成25年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detai_2010_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2170600502-00&PrEfCd=21&Versi onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7
訪問調査日	平成24年12月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者の身体状況、生活状況に合わせた福祉機器(車椅子各種、電動ベッド3種、エアーマット各種、歩行器、サイドテーブルなど)を無料で貸し出し、家族との外出時にも気軽に使用してもらっている。隣接する接骨院にて外部の方との交流もあり患者さんがお茶を飲みに来られたり、レクなどにも気軽に参加されている。また利用者の方も接骨院を利用され会話を楽しんでおられる。面会時間や電話などに制限が無い為近所の方や友人・家族、親族の方々など頻りに面会がある。岐南中学の学生との交流等の機会も多くなってきている。入居後の身体管理は看護師が責任をもっておこなっている為主治医、家族との連携もとれている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営者はホーム開設前、「喫茶店」を経営していたが、仲間の間で「年老いても住み慣れた地域で、馴染みの仲間と過ごすことのできるホームを造れたらいいね」と話することが多かった。このホームの運営にはそんな思い入れが隅々に感じられる。外出の機会が多く、地域との繋がりが強く、利用者の方も昔の仲間と会い、交流が続いている。また、隣接の接骨院を利用している方々が気楽に訪ねて来られる等利用者の方にとっては在宅で生活しているという実感があり、このホームの利用者が近隣の地域に多いのも良く理解できる。最近「看取り」を希望されるご家族も出て来たということで、今年度はおひとりの方をお送りしたが、主治医・看護師・職員が一体となり、その人らしい尊厳に満ちた最期を迎えられ、送ることができ、ご家族様からも大変感謝されたとのことである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人として尊敬されるに加え、地域交流に励み、地域に密着した暮らしができるようにする。施設内や名札の裏に明記し常に思いに留めるようにし、毎月の定例会においても理念が実施されているか確認している。	「人として尊敬され、地域に密着した暮らしができる」をホームの共通理念としており、ホーム内に掲示したり名札の裏に明記し、職員会議、毎朝のミーティング時に常に再確認し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時近所の方との挨拶を始め自宅の庭の花なども観賞させてもらっている。地域介護教室、老人会の方の訪問や、喫茶店、ふれあい祭りなど積極的に参加している。	日常的に散歩や買い物に出かけ、地域の人たちと挨拶を交わしている。地域での介護教室に積極的に参加したり、ホームの多目的ホールを地域の行事に利用してもらうなど、地域との交流ができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	接骨院を利用されている方や直接相談に来られる方、また介護教室(社協)などの場を活用し、認知症の方の理解や支援方法を説明している。平成24年7月17日家族介護教室にて講演する。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的に実施している。役場の職員、自治会長、民生委員さんをはじめ、地域の方にも参加してもらい、家族や利用者の方も催し物などを含めながら気軽に意見を出していただき取り入れるようにしている。	2ヶ月に1回運営委員会(参加者:家族・役場職員・自治会長・民生委員・地域住民)を開催し、サービス、日々の活動などの報告と共に改善点があれば改善策を考え、サービスの質の向上に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	岐南町地域包括支援センター運営協議会のメンバーの一員として参加しており、担当者とも情報交換しながら連絡を密にしている。他の方のアドバイスも頂くなど協力体制を整えている。	管理者は日ごろから市の担当者に事業所の実情等を伝える等積極的に連携を深めている。また解決すべき問題に対しては相談し、アドバイスをもらえるような協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例会、勉強会、研修などを通して拘束についての知識及び理解を深め何が身体拘束につながるのか毎日の送り時確認しながら、抑圧感のない暮らしの支援を行なっている。	身体拘束防止マニュアルを作成し、身体拘束防止の研修や事業所内勉強会を通し、拘束のないケアを実践できるよう職員全体で「人として尊敬される」ケアを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会を通して何が虐待につながるのかを認識し個々のスタッフが他のスタッフの言動に注意を促すように努め、ホーム内での虐待が見過ごされないように注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修(外部、内部)を行なっている。現在金銭管理を生活支援員の方に協力して頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明はゆっくりわかりやすく丁寧に説明している。契約時だけでなくその後も不安や疑問が生じる場合には、24時間対応できること、また直接会うなど十分な理解や納得を得て頂く様対処している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は、事務所にきて個別対応し、家族の方は来所時又は電話での24時間対応にて意見や要望を伺うようにしている。外部者へは運営推進会議を通して改善実施等を報告している。	日ごろから利用者が意見や思いを伝えることができるような雰囲気作りに配慮し、家族の訪問時の意見・要望についても運営推進会議や職員会議で話題として話し合い、サービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会においては、毎回スタッフからの意見を傾聴し改善につなげている。普段から気づきを大切にしその都度気軽に意見が交換できるよう管理者とスタッフ間の距離を密接にしている。	月1回開催される会議において職員の意見を聞く機会を設け、必要であれば改善策を考え、改善につなげている。職員が意見が言いやすい雰囲気であり、管理者も職員の様子を気にかけて、また職員との距離感をなくするよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日々職員の相談相手となれるよう気軽に声かけしている。家庭状況を考慮しながら勤務配慮している。やりがいを持ってもらえるよう外部研修に参加したり、毎月目標を持つこと、また十分な休息が取れることなど環境整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を持ち、外部研修に積極的に参加してもらうようにしている。定例会では現場に即した勉強会を行い、新任スタッフについては担当者を決めて指導してもらうようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会から常に最新の情報を取り入れている。岐南町主催の勉強会また意見交換会に出席し、また近隣のグループホームへの催しにも参加しながら質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、家族の方だけでなく出来る限り本人にも訪問して頂き、家族の方と一緒に食事を摂るようにしてもらっている。ゆったりとした雰囲気作りに努め不安なことなどを傾聴しサービスに反映できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から、家族の方の思いや現状などに耳を傾け、不安や要望など考慮できるように努力している。入居後も何時でも連絡相談が出来るよう24時間対応サービスを説明し、活用してもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が入居を希望される場合、直に決断せず、よく傾聴した後、介護保険は利用されているのか、また在宅でのサービスは可能かなどを話しあったり、本人さんと一緒に訪問してもらい本人の意向を聞いた後話し合いの場を設け他のサービスを選択してもらうことがある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の方から、昔の暮らしぶりや戦争体験など聞くことにより物を大切にすることや生活の知恵(例えば食材の活用)を学んでいる。利用者の方一人一人を尊敬し喜怒哀楽を共有できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族及び親族、友人などの訪問や電話など個別対応できることを説明している。ある家族の方は毎日訪問され、共にお茶を飲みながら今日あったことなどを談話していかれる。孫やひ孫などの面会もあって家族の方の協力に感謝している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人親戚の方の訪問を促し電話や手紙などでも連絡が取れるよう支援している。なじみの医者など関係が途切れないように支援している。	昔からの行きつけのカラオケや喫茶店・隣接する接骨院へ通うことで馴染みの知人との継続的な交流ができるよう支援している。一人ひとりの人間関係を把握し、友人・親戚との繋がりを継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	挨拶から始まり、一緒の話題の中に自然に入りこめるように誘いかけることにより、和気藹々とした雰囲気が見られる。利用者同士の中で車椅子を押ししたり食事の時優しく声かけされたりなど小さな配慮が自然に行なわれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後自宅に戻られた方や他の施設に移られた方、また入院された方の所には、入居者と共に訪問し互いの関係性を大切にしてもらっている。自宅に戻られた方には亡くなられる最後まで相談にのり支援に努めることが出来た。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩時、その人によって歩くペースが違い、行きたいところも違うため本人の意見が尊重されるようにしている。入居後寝たきりになった方も車椅子に乗って頂いたり、入居者の方にも声かけしてもらったりすることにより笑顔が見られるようになった。	アセスメントが詳細に行われ、一人ひとり思いや暮らし方の希望が把握されている。自分の思いを表出できない利用者については、日々の生活の中で本人の思いを汲み取り、職員間で共有し、より良いケアを実践している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らしを少しでも出来るよう配慮し、その人に今どんな支援が必要なのか、どんな学びをスタッフが得られるか気づきを大切にしていく。特にその人の出来る力やわかる力の発見にはスタッフが率先し、その気づきを共有して伸ばしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活歴を大切にしている。編み物の好きな人や談話を楽しまれる方、買物や散歩を好まれる方、絵を書くなど趣味をおこなわれるかた、安静時間を必要とされる方など職員がその方の状況を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居申し込みの段階で、本人・家族の意向を聞き取り、アセスメント表等に記載し、初回の介護計画につなげている。また、職員は毎月状況の見直しをしながらそれぞれの気づきや意見が反映できるようにしている。	本人・家族には日ごろからのかかわりの中で、思いや意見を聞き、計画に反映させている。計画実施の過程で職員全員が利用者のモニタリングに関わり、情報を収集し、介護計画書を作成している。利用者一人ひとりについて職員の意見を反映し、随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフが日頃から介護計画に目を留めて、計画に沿って出来たかを見直したり、気づきがあればその情報を話し合えるようにしており、そうした発見が介護計画の見直しにつながっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ベッドや車椅子また歩行器などその人に合った最善の福祉用具を無料で貸し出している。家族と共に外出される際歩行器や車椅子なども無料で貸し出し外出が気軽に出来るよう支援している。接骨院にて残存機能の活用、及び他の人との交流もたのしまれる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括支援センターや民生委員の方による定期的訪問あり。社協の喫茶店を積極的に利用することにより顔なじみ方との会話も弾んでいる、岐南中学生との交流や地域の方に気軽に来ていただける場を設けたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を優先している。入居前のかかりつけ医との関係が継続できるようにしている。連携は看護師を通して行い常に情報交換に努めている。	利用前、十分な説明を行い、本人、家族の希望を優先し、かかりつけ医を決めている。専門医への受診は家族に対応していただいている。健康管理は看護師が主治医との連携を密にしながら対応している。緊急時には往診もしていただけるので安心して生活ができている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が入居前のかかりつけ医との関係が継続できるようにしている。病院に出向き医療に関する連携がとれるよう情報を共有している。常に家族の方へも説明し職員にも早期発見、看護師への報告が出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態が不安定となり、入院が必要になった場合、本人の不安を取り除くようつとめ、家族の方にも情報をつたえ、入院先の医師、看護師に入居生活情報をつたえる。入院まで付き添う。退院時は院内相談員との連携をとり早期退院に向けて積極的にとりくんでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームにおける「利用者の重度化した場合における対応に係る指針」という資料を基に早い段階から本人及び家族との話し合いの場もうけている。その都度本人、家族の意思を常に尊重し、看護師が医師との情報交換を密に行い、職員全体でケアできるように努めている。	重度化した場合や終末期についての指針が作成されており、早い段階から本人・家族等と話し合いを行っている。状況の変化のたびに随時意思を確認しながら取り組んでいる。看護師が24時間対応し、安心した最期を迎えられるように体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例会や個別会議時利用者の現在の状態を把握している。また日頃から、職員全体が急変時例えば意識レベルの状態などの勉強会を行なっている。またハイムリック法などの実施訓練も行い実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練の実施をすることにより、どのように避難するかを確認している。(職員利用者、家族) 周りに住居が無い為、警察、消防署、隣接する接骨院、自治会長さんはじめ町内の方々に協力をえられるよう働きかけている。	火災、地震等の災害の場合にはスムーズな対応ができるよう利用者・職員が定期的に防災訓練を実施している。	東日本大震災以降、防災に対する関心が高まっている折、自治会や地域住民の協力も得られるよう、今後も働きかけを継続して頂きたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方の尊厳を重んじるよう、入社時や毎月の定例会にて管理者より訓戒あり。特に傷つくような言葉遣いや、対応が無い各職員がお互いに気をつけている。また、排泄や入浴などのプライバシーの保護に努め、居室内にも必ずノックして入るようにしている。	利用者に対してどの職員も常に笑顔で優しく接しているため利用者も落ち着いて過ごしている。さりげない言葉かけや対応にも配慮されていて、管理者の「利用者の尊厳を重んじるように」という教えが守られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	総てを支援するのではなく、その人の状況に合わせた支援が出来るよう、介護計画や支援状況を振り返りながら職員全員で話し合いながらおこなっている。普通の暮らしは自己決定の出来る暮らしであることを職員が思いに留めるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のその人に合わせたペースを大切にしている。散歩を好む人は午前だけでなく午後や夕方にも出かけたり、レクよりも自分の時間を楽しみたい方には、そのことを優先していただいたりして有意義な日々を少しでも送って頂ける様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の中には化粧ボックスを自宅から持ち込んでこれ毎日きれいにお化粧される方もおられる。いきつけの美容院に家族と出かける方やスタッフが送迎することもある。洋服なども広告を見たり外出して直接選ぶようにしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立のとき何を食べたいか、また昨日は何を食べたかなどをきくようにしている。調理においては、仕事を分担し、野菜の下処理、味付けを行なってもらっている。職員も利用者の方と共に並んで食事を楽しんでいる。あと片付けも協力しておこなっている。	利用者の希望に出来る限り添うよう献立を立てている。季節感を取り入れた食材や食器を使用する等して食事が楽しくなるよう工夫している。手伝いのできる利用者は野菜の下ごしらえや味付け、食器拭きなど協力をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3食摂取量のチェックを行い水分摂取もこまめにすすめ体重測定、摂取状況を常に把握している。食べるのに時間がかかる人また最初は自己摂取できるものの中であきらめてしまう人には食器スぺーンなどを変えるなどして介助行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの出来る人は、朝晩歯磨きを行っていたが、入れ歯の方は毎晩ポリドントを使用している。充分歯を磨けない人は始め本人にしていたがその後スタッフがやっている。口腔ケアに気を配り常に清潔に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の排泄パターンを各職員が理解している。一人では歩けない人や尿意の無い人なども声かけしトイレ誘導することにより排泄を促している。失禁時も尊厳を保てるようプライバシーの保護に努めている。	一人ひとりの排泄パターンを全員が把握し、行きたい時にトイレに行けるよう、本人の生活リズムに合わせた支援をしている。失敗した時も周囲に気づかれないよう配慮している。入居の時よりオムツの使用量が減った利用者も多い。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取と運動を進めており、毎日排便チェックをおこなっている。運動は天気の良い日は必ずその人の体調に合わせたコースにて散歩に出かけたりしている。食物は根菜類の摂取寒天を利用したおやつなどをこころがけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒否される方には職員が代わる代わる声かけしたり、次の日に入浴してもらうこともある。仲の良い方同士で入浴されたり男性職員の介助を拒否される方は女性職員が行なっている。入浴剤から選んでもらったり自分の愛用する石鹸やシャンプーも利用し楽しんでもらっている。	週3回の入浴を実施している。好みのシャンプーや石鹸を使用でき入浴を楽しんでいる。親しい友人同士での入浴や入浴を拒否される利用者へは柔軟性を持って臨機応変に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事後、自室内で横になってテレビを見る方や、ホールの椅子に座って日に当たりながら休息を取られる方などそれぞれ過ごしやすい状況をこころがけている。寒いときは湯たんぽを活用するなど安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が薬の管理を行っており、職員にも薬の目的や副作用、及び本人の小さな症状の変化にも気づけるよう説明している。早期発見、情報の伝達対処がスムーズに行なえるようにし、主治医への連絡も密に行い治療や服薬調整にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴を大切に日々の生活の中でたのしんでもらっている。編み物の好きな人が帽子を編み他の利用者にプレゼントされたり、縫製をやっておられた方には縫い物ものをお願いしたり、絵を書くなど趣味をいかしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物などの希望があるときはその都度外出できるよう支援している。普段はいけない所(グランドホテル昼食会岐南祭り、喫茶店など)も家族の方に声かけし同伴してもらったり、家族の方と共に結婚式やお墓参り、外出、外食などをたのしまれている。	天気の良い日は可能な限り散歩に出かけ、地域の人と交流している。一人ひとりの習慣や楽しみごとに合わせて、喫茶店や外食・買い物にも頻繁に出かけている。25人乗りのマイクロバスを所有しているので家族も同伴で花見や遠足に出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いのもと個人的に金銭を所持しておられ、買物時そのお金で個人用のおやつや本を買う事が出来る。金銭の確認も本人と家族、職員が確認できるようにしている。金銭を預かりノートに記帳し毎月家族に報告しサインを貰っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者本人が希望される場合、電話や手紙など何時でも気軽にやり取りできるように支援している。電話の場合、皆のなかで話しても良い事柄と事務所でこっそりかけるときなどそのときの本人の状況に合わせて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光は、明暗が調節できるので、その時々に合わせて活用している。生活観や季節感を取り入れる為居間や居室に花を飾ったりしている。どの部屋も温度差のない様行動しやすいようにし、温かみのある生活感あふれる場所となるよう工夫している。	職員と利用者の共同で作成されたちぎり絵が掲示されており共用空間が和やかなものとなっている。廊下の壁には季節感を取り入れた装飾がなされていて明るい雰囲気である。利用者は個室にこもることは無く、共用空間で楽しく談笑している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間には、いつも利用者の方が集まり団欒がある。その他事務所や多目的ホール、エレベーター前などにも椅子を置き、個人的な語らいの場を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人のなじみのあるものをご家族と利用者と一緒に話し合ってもらい、持ち込めるものを配慮してもらっている。入居後家族の方が本人と話し合いの後、テレビや机など持って来られることもあって本人が暮らせるように工夫してもらっている。	使い慣れた筆筒や写真などの思い出の品々が持ち込まれ、居心地の良い居室となっている。また行事の時の写真や日ごろの写真を編集して壁に飾るなどし、温かい雰囲気を醸し出している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッド、車椅子、歩行器など本人に合った最善の福祉用具を利用してもらっている。見当識障害のある方には、洗面所やトイレの場所などを言葉によって明示し識別している。段差をなくし転倒を予防したり、廊下やトイレ、風呂にも手すりがあり、自立をうながしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170600502		
法人名	合資会社 若葉		
事業所名	グループホーム 若葉 (2階)		
所在地	岐阜県羽島郡岐南町平成2丁目139番地		
自己評価作成日	平成24年11月1日	評価結果市町村受理日	平成25年2月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=detail_2010_022_kani=true&j_gyosyoCd=2170600502-00&Pr ef Cd=21&Versi onCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 岐阜後見センター		
所在地	岐阜県岐阜市平和通2丁目8番地7		
訪問調査日	平成24年12月4日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	人として尊敬されるに加え、地域交流に励み、地域に密着した暮らしができるようにする。施設内や名札の裏に明記し常に思いに留めるようにし、毎月の定例会においても理念が実施されているか確認している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時近所の方との挨拶を始め自宅の庭の花なども観賞させてもらっている。地域介護教室、老人会の方の訪問や、喫茶店、ふれあい祭りなど積極的に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	接骨院を利用されている方や直接相談に来られる方、また介護教室(社協)などの場を活用し、認知症の方の理解や支援方法を説明している。平成24年7月17日家族介護教室にて講演する。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回定期的実施している。役場の職員、自治会長、民生委員さんをはじめ、地域の方にも参加してもらい、家族や利用者の方も催し物などを含めながら気軽に意見を出していただき取り入れるようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	岐南町地域包括支援センター運営協議会のメンバーの一員として参加しており、担当者とも情報交換しながら連絡を密にしている。他の方のアドバイスも頂くなど協力体制を整えている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定例会、勉強会、研修などを通して拘束についての知識及び理解を深め何が身体拘束につながるのか毎日の送り時確認しながら、抑圧感のない暮らしの支援を行なっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や勉強会を通して何が虐待につながるのかを認識し個々のスタッフが他のスタッフの言動に注意を促すように努め、ホーム内での虐待が見過ごされないように注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についての研修(外部、内部)を行なっている。現在金銭管理を生活支援員の方に協力して頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	説明はゆっくりわかりやすく丁寧に説明している。契約時だけでなくその後も不安や疑問が生じる場合には、24時間対応できること、また直接会うなど十分な理解や納得を得て頂く様対処している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者は、事務所に来て個別対応し、家族の方は来所時又は電話での24時間対応にて意見や要望を伺うようにしている。外部者へは運営推進会議を通して改善実施等を報告している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回の定例会においては、毎回スタッフからの意見を傾聴し改善につなげている。普段から気づきを大切にしその都度気軽に意見が交換できるよう管理者とスタッフ間の距離を密接にしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は日々職員の相談相手となれるよう気軽に声かけしている。家庭状況を考慮しながら勤務配慮している。やりがいを持ってもらえるよう外部研修に参加したり、毎月目標を持つこと、また十分な休息が取れることなど環境整備にも努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会を持ち、外部研修に積極的に参加してもらうようにしている。定例会では現場に即した勉強会を行い、新任スタッフについては担当者を決めて指導してもらうようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国グループホーム協会から常に最新の情報を取り入れている。岐南町主催の勉強会また意見交換会に出席し、また近隣のグループホームへの催しにも参加しながら質の向上を目指している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前、家族の方だけでなく出来る限り本人にも訪問して頂き、家族の方と一緒に食事を摂るようにしてもらっている。ゆったりとした雰囲気作りに努め不安なことなどを傾聴しサービスに反映できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から、家族の方の思いや現状などに耳を傾け、不安や要望など考慮できるように努力している。入居後も何時でも連絡相談が出来るよう24時間対応サービスを説明し、活用してもらっている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族が入居を希望される場合、直に決断せず、よく傾聴した後、介護保険は利用されているのか、また在宅でのサービスは可能かなどを話しあったり、本人さんと一緒に訪問してもらい本人の意向を聞いた後話し合いの場を設け他のサービスを選択してもらうことがある。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は利用者の方から、昔の暮らしぶりや戦争体験など聞くことにより物を大切にすることや生活の知恵(例えば食材の活用)を学んでいる。利用者の方一人一人を尊敬し喜怒哀楽を共有できるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族及び親族、友人などの訪問や電話など個別対応できることを説明している。女学校の友達の面会や電話などで談話していかれる。孫やひ孫などの面会もあって家族の方の協力に感謝している		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人親戚の方の訪問を促し電話や手紙などでも連絡が取れるよう支援している。なじみの歯医者、美容院など関係が途切れないように支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	挨拶から始まり、一緒の話題の中に自然に入りこめるように誘いかけることにより、和気藹々とした雰囲気が見られる。利用者同士の中で車椅子を押ししたり食事の時優しく声かけされたりなど小さな配慮が自然に行なわれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後自宅に戻られた方や他の施設に移られた方、また入院された方の所には、入居者と共に訪問し互いの関係性を大切にしている。自宅に戻られた方には亡くなる最後まで相談にのり支援に努めることが出来た。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	散歩時、その人によって歩くペースが違い、行きたいところも違うため本人の意見が尊重されるようにしている。入居後寝たきりになった方も車椅子に乗って頂いたり、入居者の方にも声かけをもらったりすることにより笑顔が見られるようになった。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の暮らしを少しでも出来るよう配慮し、その人に今どんな支援が必要なのか、どんな学びをスタッフが得られるか気づきを大切にしてい。特にその人の出来る力やわかる力の発見にはスタッフが率先し、その気づきを共有して伸ばしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活歴を大切にしている。編み物の好きな人や談話を楽しめる方、買物や散歩を好まれる方、絵を書くなど趣味をおこなわれるかた、安静時間を必要とされる方など職員がその方の状況を把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居申し込みの段階で、本人・家族の意向を聞き取り、アセスメント表等に記載し、初回の介護計画につなげている。また、職員は毎月状況の見直しをしながらそれぞれの気づきや意見が反映できるようにしている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフが日頃から介護計画に目を留めて、計画に沿って出来たかを見直したり、気づきがあればその情報を話し合えるようにしており、そうした発見が介護計画の見直しにつながっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ベッドや車椅子また歩行器などその人に合った最善の福祉用具を無料で貸し出している。家族と共に外出される際歩行器や車椅子なども無料で貸し出し外出が気軽に出来るよう支援している。接骨院にて残存機能の活用、及び他の人との交流もたのしまれる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	包括支援センターや民生委員の方による定期的訪問あり。社協の喫茶店を積極的に利用することにより顔なじみ方との会話も弾んでいる、岐南中学生との交流や地域の方に気軽に来ていただける場を設けたりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望を優先している。入居前のかかりつけ医との関係が継続できるようにしている。連携は看護師を通して行い常に情報交換に努めている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が入居前のかかりつけ医との関係が継続できるようにしている。病院に出向き医療に関する連携がとれるよう情報を共有している。常に家族の方へも説明し職員にも早期発見、看護師への報告が出来るよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態が不安定となり、入院が必要になった場合、本人の不安を取り除くようつとめ、家族の方にも情報をつたえ、入院先の医師、看護師に入居生活情報をつたえる。入院まで付き添う。退院時は院内相談員との連携をとり早期退院に向けて積極的にとりくんでいる。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当ホームにおける「利用者の重度化した場合における対応に係る指針」という資料を基に早い段階から本人及び家族との話し合いの場もうけている。その都度本人、家族の意思を常に尊重し、看護師が医師との情報交換を密に行い、職員全体でケアできるように努めている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定例会や個別会議時利用者の現在の状態を把握している。また日頃から、職員全体が急変時例えば意識レベルの状態などの勉強会を行なっている。またハイムリック法などの実施訓練も行い実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練の実施をすることにより、どのように避難するかを確認している。(職員利用者、家族) 周りに住居が無い為、警察、消防署、隣接する接骨院、自治会長さんはじめ町内の方々に協力をえられるよう働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の方の尊厳を重んじるよう、入社時や毎月の定例会にて管理者より訓戒あり。特に傷つくような言葉遣いや、対応が無い各職員がお互いに気をつけている。また、排泄や入浴などのプライバシーの保護に努め、居室内にも必ずノックして入るようにしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	総てを支援するのではなく、その人の状況に合わせた支援が出来るよう、介護計画や支援状況を振り返りながら職員全員で話し合いながらおこなっている。普通の暮らしは自己決定の出来る暮らしであることを職員が思いに留めるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のその人に合わせたペースを大切にしている。散歩を好む人は午前だけでなく午後や夕方にも出かけたり、レクよりも自分の時間を楽しみたい方には、そのことを優先していただいたりして有意義な日々を少しでも送って頂ける様にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の中には化粧ボックスを自宅から持ち込んでこれ毎日きれいにお化粧される方もおられる。いきつけの美容院に家族と出かける方やスタッフが送迎することもある。洋服なども広告を見たり外出して直接選ぶようにしてもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立のとき何を食べたいか、また昨日は何を食べたかななどをきくようにしている。調理においては、仕事を分担し、野菜の下処理、味付けを行なってもらっている。職員も利用者の方と共に並んで食事を楽しんでいる。あと片付けも協力しておこなっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	3食摂取量のチェックを行い水分摂取もこまめにすすめ体重測定、摂取状況を常に把握している。食べるのに時間がかかる人また最初は自己摂取できるものの中であきらめてしまう人には食器スプーンなどを変えるなどして介助行なっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯磨きの出来る人は、朝晩歯磨きを行っていたり、入れ歯の方は毎晩ポリドントを使用している。充分歯を磨けない人は始め本人にしていたりその後スタッフがやっている。口腔ケアに気を配り常に清潔に心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その人の排泄パターンを各職員が理解している。一人では歩けない人や尿意の無い人なども声かけしトイレ誘導することにより排泄を促している。失禁時も尊厳を保てるようプライバシーの保護に努めている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取と運動を進めており、毎日排便チェックをおこなっている。運動は天気の良い日は必ずその人の体調に合わせたコースにて散歩に出かけたりしている。食物は根菜類の摂取寒天を利用したおやつなどをこころがけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴を拒否される方には職員が代わる代わる声かけしたり、次の日に入浴してもらうこともある。仲の良い方同士で入浴されたり男性職員の介助を拒否される方は女性職員が行なっている。入浴剤から選んでもらったり自分の愛用する石鹸やシャンプーも利用し楽しんでもらっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	食事後、自室内で横になってテレビを見る方や、ホールの椅子に座って日に当たりながら休息を取られる方などそれぞれ過ごしやすい状況をとこころがけている。寒いときは湯たんぽを活用するなど安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師が薬の管理を行っており、職員にも薬の目的や副作用、及び本人の小さな症状の変化にも気づけるよう説明している。早期発見、情報の伝達対処がスムーズに行なえるようにし、主治医への連絡も密に行い治療や服薬調整にも努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴を大切に日々の生活の中でたのしんでもらっている。編み物の好きな人が帽子を編み他の利用者にプレゼントされたり、縫製をやっておられた方には縫い物ものをお願いしたり、絵を書くなど趣味をいかしてもらっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買物などの希望があるときはその都度外出できるよう支援している。普段はいけない所(グランドホテル昼食会岐南祭り、喫茶店など)も家族の方に声かけし同伴してもらったり、家族の方と共に結婚式やお墓参り、外出、外食などをたのしまれている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族との話し合いのもと個人的に金銭を所持しておられ、買物時そのお金で個人用のおやつや本を買う事が出来る。金銭の確認も本人と家族、職員が確認できるようにしている。金銭を預かりノートに記帳し毎月家族に報告しサインを貰っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者本人が希望される場合、電話や手紙など何時でも気軽にやり取りできるように支援している。電話の場合、皆のなかで話しても良い事柄と事務所でこっそりかけるときなどそのときの本人の状況に合わせて対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	光は、明暗が調節できるので、その時々に合わせて活用している。生活観や季節感を取り入れる為居間や居室に花を飾ったりしている。どの部屋も温度差のない様行動しやすいようにし、温かみのある生活感あふれる場所となるよう工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂兼居間には、いつも利用者の方が集まり団欒がある。その他事務所や多目的ホール、エレベーター前などにも椅子を置き、個人的な語らいの場を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に本人のなじみのあるものをご家族と利用者と話し合ってもらい、持ち込めるものを配慮してもらっている。入居後家族の方が本人と話し合いの後、テレビや机など持って来られることもあって本人が暮らせるように工夫してもらっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベッド、車椅子、歩行器など本人に合った最善の福祉用具を利用してもらっている。見当識障害のある方には、洗面所やトイレの場所などを言葉によって明示し識別している。段差をなくし転倒を予防したり、廊下やトイレ、風呂にも手すりがあり、自立をうながしている。		